

総務文教委員会記録

令和3年3月19日（金）
13時28分～15時20分
第1委員会室

【委員】 西村委員長、芦谷副委員長
三浦委員、西川委員、上野委員、永見委員、西田委員、牛尾委員

【委員外】

【議長団】

【事務局】 下間書記

【議題】

1 【取組課題】 こどもの可能性を育む幼児教育について（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

[13 時 28 分 開議]

西村委員長

ただいまから総務文教委員会を始める。出席委員は8名で定足数に達している。レジュメに沿って進める前に牛尾委員から発言の申し出があったのでお願いします。

牛尾委員

貴重な時間を借りて申しわけない。私事で申しわけないが、現状で月、水、金曜日で、夜間透析のため通院しているが、病院の看護師の働き方改革と人員配置の関係で3月17日から病院に少し早く入ってほしいと言われた。15時30分までに入ってくれということなので、15時30分くらいには、委員会を早退させていただかなければならず、皆さん方にご迷惑をおかけすることがあるが、前もって報告をするので、配慮をお願いします。

西村委員長

ということで、残念ではあるが、身体が大事であるので承知した。では、議題に入る。

1. 【取組課題】 こどもの可能性を育む幼児教育について（委員間で協議）

西村委員長

この件については、2月15日が直近の会議であったが。統合問題を先に議論して、方向性を出そうという意見があり、大方その方向でいくようなことであった。今日の委員会で決めること、できれば決めたいこととしては、先ほど言った幼稚園の統合問題の提言を先にするのか、しないのかということ。また、もし、それを優先的にする場合はどういう提言内容にして、いつまでにするのかということの枠組みを決めたい。逆に統合問題を優先せずに並列的に議論するのであれば、これまでの中身をまとめるということで、これも内容と期限を精査する必要がある。

統合問題の関係は本日、優先的にするかどうか、皆に意見を伺う。前回から1月くらい時間もたっており、また年度末ということもあるが、すでに遅いということも言えるがどうか。

西川委員

幼稚園の統合問題は時期がたったため、タイミング的に急ぐ時期がずれてしまったと思う。幼児教育センターについての議論も含め並列的に行えばよいと思う。

牛尾委員

新教育長の任命議案のときも申し上げたが、新教育長の顔が変わるだけではだめだと申し上げ、執行部からはそういうことではないという答えもあった。私は保護者との意見交換会も実施、それを尊重するのであれば、将来というのではなく、年限を決めてもらい、早めに新園を立ち上げてもらうべきだと考える。

1つの理由としては、今、旧原井幼稚園跡地はある民間法人がほしいと言っているし、隣接する民間会社もほしいと言われているし、処分するのであれば、中期財政計画になくとも持ち出しがそれほど出ないし、あわせて、財政調整基金も含めて、残りが120億円くらいあるようなので、そういう財政的な余裕があるときに民意に応えるのが、あのように意見交換をした委員会の役目だと思う。できればこれを先に、最低でも年度内に申入れをするべきだと思う。

芦谷副委員長

ここまで議論したので提言、申し入れについて、今現在の段階でまとめ

られるだけまとめて、最低でも年度内くらいには、全体の提言をまとめて行くべきだと思う。年度をまたぐと延び延びになる。全体の提言をしたほうがよい。

西村委員長
芦谷副委員長
西村委員長
牛尾委員
西田委員

年度内に全体の提言をとということか。

そうだ。

牛尾委員は統合に限ってか。

そう、統合に限っては年度内にすべきと思う。

教育委員会が出している方針について、当面5年は長浜幼稚園に1園統合、数年後に新園を建設という方針だ。新園建設がアバウトであり、数年というのが、園児の減少に伴い変わってくる。その変化を教育委員会は待っているのではないか。その状況によって新園の話もなくなるのではないか。その間に何らかの委員会としての年度を決めた提言をしていくか、あるいは新しく園児が増えるような提言をこの委員会でしたほうがよい。具体的なものを形として、提言したほうがよいかと思う。それは年度内、あるいは年度をまたいでも仕方ないが、何らかの具体的な提言は必要である。

西村委員長
西田委員

それは全体ではないようだが、統合に絞った話か。

そう、全体ということではないが、統合に絞ったような話ではあるが、新園の計画が数年先であり、その間に状況は変わると思う。

西村委員長

園児数的には誰もわからないわけだが、単純には30人くらいになるのではないかと想定はできる。

西田委員

歯止めがきかないくらい減っていくのではないか。私立の園児は一定の確保がなされるが、公立の幼稚園となると転勤された方やそういう意識のはっきりした方は公立幼稚園に行かそうとされるが、それだけの思いを維持することが長浜幼稚園だけでできるのか。新園ならまだ計画的に先のように思うが、早目に計画をという提言を委員会でできるのではないか。

三浦委員

まず、確かに統合問題については時期を逃した。しかし、先送りにすることのメリットはない。この提言が大きく二つのパートに分かれたとしたときに、一緒にしたほうがよいのか、やらなければならないのか、分けても問題ないのか。そうであるなら、早く出せるものは出して、必ずしもこれを全部するには時間もかかるので、それを完璧な状態でしようとする多分時間がかかりすぎる。したがって、一つ一つ議論したものをその都度出していくことでよいかと個人的には思う。今まとめようとしている目途も、どのくらいまでということを経営部のスケジュール、動きを見ながらタイミングを逃さないようにすることが重要である。統合問題の申し入れについては、保護者から出ていた預かりとか給食などの3つのサービスも含めての提言になると思う。これについては、その流れを酌んで新園をどうなのかという、そこはひとくくりだと思う。もしこれを分けるのであれば、現在の幼稚園の状況について、この3つのサービスについては、早期に検討すべきということを出す。

公立幼稚園をどうするのかということに係ってくるのであれば、このサービスについては、新園は関係なく今日の前の話であるので、そうであるならこれだけを先に出して、新園舎については、どういうあり方が

よいのかをまとめてやるとか。今、直接的に言われて、対処すべき課題もあるので、それは早くしないといけない。それは早くしないと今後統合問題の計画が進む中で同時に検討してほしい事項であるし、これまでの中でその議論は委員会の中で共有されているので、その部分は早く出してよいのかと思う。

西村委員長
三浦委員

多分、一番問題なのは給食。建物との関係で。

だからそれも、牛尾委員が給食センターに聞かれた。そこで具体的な話をされたときに予算が幾ら必要ということなら、この公立幼稚園の給食を何日間か確保するために予算として計上されたいという提言を具体的にできる。預かりのところも執行部が消極的なものには理由があるはず。ここを早くやろうというのであれば、先行的に着手したほうがよい。保護者から要望があったからやるべきというなら、なぜそうなのかと執行部から聞かれたときに、こちらもしっかりと理論武装して臨む必要がある。こういう根拠だと。そこまでまだこちらも詰めていない。どれを優先するかというと、その部分かと思う。統合幼稚園もそうだが、私はそこもトータルで考えていたので、もし議論が必要なら、そこも細分化してやる。これは1つの提案、意見である。

上野委員

この前の意見交換会でも残してほしいという気持ちはわかった。また長浜は遠いという意見も理解した。園児数を増やすためにはどうしたらよいのかということ自分たちもしっかり一緒になってしなければいけない。預かりや給食のことをやれば保護者も喜び園児数も増えると思うので、しっかり議論して、意見を出していけば、できれば中心部に園をつくれればよいが、できたときに園児がいなくては無駄になってしまうので、まずは園児数を増やすにはどうしたらよいかということが必要。

永見委員

統合幼稚園については、全体より先に提言を出すべきかと思う。市からも方針が出されている以上、また、保護者からの意見も聞いたこともあるので、統合幼稚園についての提言を委員会として先に出すほうがよい。全体は時間をかけて、議論しながら最終的にまとまったものを出すべき。

西村委員長

意見が割れているが、芦谷副委員長の全体をまとめて年度内にとというのは現実的に困難かと思う。

芦谷副委員長

補足すると、2月15日に委員長がまとめたアクションプランの策定についてはそれなりにまとまっているし、幼児教育センターを中心とした幼児教育のところもまとまっているし、3項目めの市立幼稚園の整備方針の確立に新園の問題、もう1つには公立幼稚園のサービスの問題こういったことでやれば、最終的には執行部の問題になるので、少し稚拙であったとしても、ある程度まとまったところを出してもよいかと思った。皆に従うが。

牛尾委員

副委員長が言われるようにまとめが間に合えば出せばよくて、それはそれでよい。補足すると給食、預かりのところをそれぞれの3園ですぐに導入というのは財政的にも人間的にも難しいと思う。そうであるならなるべく早い時期に新園をつくり、新園完成のタイミングでそういうもの全てということ。1か所に給食だとそこまで難しくないだろうし、給食センターも費用が出れば、狭いけどラインをつくることは可能と言っているし。その辺はお金で片がつく問題だ。

だからこの3つの要件を実現するには、新園でなければ難しいと思うので、しかるべき場所に、浜田市内全体を見据えて、一番通園しやすい場所に新園を建設していただくことを急いでもらおう。それに併せて3つの機能を充実すると。今の3園でばらばらでできることはやってもらえればよいが、やはり新しいサービスは新園をつくって、そこで全てやってもらおうことのほうがわかりやすくよいと思うのだが。

西村委員長

単純に数でいうと、統合問題を年度内にという声が多いように思うが、皆そう受け止めたか。よいか。西川委員は少し違ったが。私は正直まとめきれないのだが。

三浦委員

委員長はどのように考えているのか。

西村委員長

まだすっきりしていない。一番のひっかかりは統合後の幼児教育センターのイメージがかなりこの委員会での議論のイメージと一般質問での答弁と比較すると、執行部のイメージは教頭を3人集めて、長浜幼稚園の片隅で研修を中心にやっていくというイメージで、とても教育方針をそこで担っていく、そこで方針を立て、柱や具体化も含めてセンターが中心になって進めていくというイメージではないのが一番気になっている。もう1つは市立幼稚園を数的にいうとジリ貧になっているが、数字の上でストップをかけて可能性として上向きにするためのサービスがあるように思うが、統合してからやるというのもそうだが、統合前から目に見える形でそういうものができることから始めるということも、あえて提言の中に入れてやっていくことにしないと、なかなかやってみただけ、うまくいかなかったということもあるように思う。それが自分の中でイメージ、ストーリーができていない。

牛尾委員

今、委員長が言われたように3園の中で統合に向かって、それぞれ3つのことの準備ができればよいが、なかなか準備ができることとできないことがあり、新園に併せてできないとできないこともあるので、それは努力してもらおうというような提言でよいのではないか。もう1つは一旦予算の上があった約6億円、当時の予定だと今年4月1日が新しい園の開園予定であった。当時との違いは、高度衛生管理型の施設のせいで先送りになっただけなので、原井幼稚園を分譲してほしいという法人もあり、財源的にも確保できるので、この前の保護者の声を聞いて、やはり長浜幼稚園には通えない保護者もおられる。もう1時間預かりをしてくれればという個別の案件を聞くと、そういうことをクリアすると今以上に園児が増えるようにも思う。その辺は皆の意見をまとめて、小分けにして提言してはどうか。3園残ったままで、個別に、細かく組み立てていって、総合的に、最終的には新園をつくってそういうことに取り組むという流れのほうが執行部も楽なのではないか。

西村委員長

結局、給食、預かり、通級でなく通園バスの3つがなぜできないのかということで、その理由は単純にお金がないということだけのこと。現時点でいうと、統合はすると言っているわけで、その前倒しで、その統合によって浮くお金を給食や預かりに使うということだと、それでは成り立たないというか、よいようにはならない。今までは、そういう合理化、新しいサービスを実施するだけの財源がないからできないという一点張りだったが、統合がはっきりしている現状でいえば、私は理屈の上では、

新しいサービスは準備さえ整えば、今年の10月からでもできるのではないかと思う。それを3園ともやれというかは、わからないが。

三浦委員

今、現状、給食サービスができない理由は、執行部としては財源がないとしているが、それはオペレーションのことなのか、そこがわかっていないと提言もできない。予算、財源が問題なのであれば、全園に毎日給食を配食したときにそれは難しいというのであれば、週の半分、あるいは月に何回かの回数をこれだけ増やしたときは、予算はこれくらいで済むから、せめて間を取るということではないが、3園の状況でも給食を早期にやるために、最低月5回、そのための予算を子育て支援としてつけるべきだと。そして、先ほどから牛尾委員が言われるように1園になれば、そのオペレーションはスムーズになることは間違いないので、統合後はその回数を増やすとともにという文言をつければ、早期に新園建設の前倒しをする理由にもつなげていけると思う。

したがって、予算の問題なのか、そもそもトラックがそこまで行けないという物理的な要因があるなら、予算の話ではなくなってくる。

牛尾委員

結局、現実的に、今3園全てにとというのは難しい。現行の配送のグループの中で今日は長浜幼稚園とか今日は美川幼稚園とか、ぶつからないようにしているはず。それは幼稚園だけを走る車が1台あれば解決する問題。コストはかかるが。

三浦委員

では、オペレーションでなければ、その回数を増やしてそのためにお金があればできるという、物理的な対応が給食センターの対応が可能であれば、予算を要求するような提言ができる。

西村委員長

何が要因でできないのかの理由を明確につかんでいないということか。

三浦委員

そのとおり。統合の問題のところでサービスの問題も話していくのであれば、その現状把握は必要である。

牛尾委員

現状の予算の枠のところでやろうとしているので、そこは限界であると言っているのだと思う。

西村委員長

そう、そこは明確だ。

三浦委員

要は分母が変わらないということか。しかし、本来それが本当に子育て支援策として、幼児教育の現場として必要なのだということを我々が伝えればよいのだと思う。その分母の中でやりくりしてくれというよりは、今回の第3子支援も市長の考え方の中で子育て支援策をこういう形でやればよいという政策判断なので、我々はそこに数千万円かかってもここは必要であるということを提言すればよいのではないかと思う。分母の中でやりくりをしてくれという話ではなく。それは難しいと執行部は言われるかもしれないが、必要なものは求めていくというスタンスで提言書を書けばよいと思う。

芦谷副委員長

今言われたように、あまり可能性のことまで考えていたら足が止まる。大きな項目で提言をして、あとは市長に考えてもらう。

西村委員長

そういう意味で、私は統合は令和5年度からするという前提で、財源的な問題はその前倒しでやるということであれば、ほとんど何の問題もないかと思うのだが。これは私の考えであるが。

牛尾委員

そこでひっかかるのは、長浜では通園できないという声があるということ。それをクリアするためには、財源的に原井幼稚園の売買などをすれ

ばこの際、新園をしかるべき場所に建てたほうがいろいろなサービスができて逆に保護者側から見てやはり自分の子どもを行かそうと思うと新しいところにこしたことはないし、もっと魅力をそこにつぎ込んで、保護者に期待を持ってもらうようなことを見せるほうが早道なのではないかと思う。

西村委員長

以前の新園の構想の時は、具体的に6億数千万円という数字が出ていたわけだが、牛尾委員は具体的にどこにというのを覚えているか。

牛尾委員

場所は今の野外ステージのそばに土地があるだろう。

西村委員

やはり、あそこなのか。

牛尾委員

どうしても松原町のあたりは、以前からちょっとと言われていたし、私は大学のところにつくっていけば、子育て支援センターもあそこらあたりでできるわけだし、やはりあの辺に統合新園を建設すれば、集約できて、バイパスを通れば通園しやすいし。これはアバウトな話であるが。逆に言えば。委員会としてこの辺に適当な場所があると切り切ったほうが執行部も委員会の提案だからと。提言、提案はそこまで重く考えなくてもよいのではないか。

西村委員長

統合についてまとめるといふことか。

永見委員

新園を建設するということは3年から5年くらい先の話になる。そうすると園児減少について新園建設が早めに決まれば歯止めがきく。そういう新しい立地のよいところで、またサービスも給食とか預かりとかの対応をしてもらえるようになれば、園児の減少に大きく歯止めがきくのではないか。新園建設について提言の中で大きく出しても、これは園児確保のためにもよいと思う。

西村委員長

新園をつくるということを前提に、この統合幼稚園について、1つは早く新園をつくることについて具体的に打ち出せというのが柱になる。時期、場所を明確にしろというのが1つ。

もう1つは、可及的速やかにという意味合いで、今の3園について、3つのサービスの導入について、できるだけ早く、統合を待たずに実施できるように最大限の努力をすべきという、この2本立てか。

牛尾委員

あれこれ言ってもいけないが、新園の目玉として、給食の自校方式。地産地消を基本とした自校方式の新園だということだと、1つの売りになると思う。そうすると運搬車を用意するよりも、はるかに自校方式のほうがコストカットになるような気がする。

西村委員長

それは誰もが思うところだが、新園の目玉の1つか。

牛尾委員

結構、中山間地の保育園では自園方式でやっているわけだから。

三浦委員

保育園は給食室がある。

牛尾委員

そう、だからそれも提言をするなら、配送で事故があったときに左右されないことから、自校方式で一定の人を採用すれば、雇用の確保にもつながるし、園の魅力にもつながる。私は自校方式の方が給食センターのお世話になるわけでもなく、それはそれでよいのではないかと思う。

西村委員長

要するに新園の目玉の1つに。

牛尾委員

そう、保護者が自分の子どもを通わせたいと思えるような。子どもの口に入るものに気を使う。一定の人数は雇用する必要があるし。自校方式は考える必要があると思う。

三浦委員

牛尾委員の提案に賛成である。ただ、提言するとき実際に自園方式で給食を提供するサービスにした場合にどのくらいの費用がかかるのか、あるいは、センターからの配送の場合はどのくらいかかるのか、そのメリット、デメリットもここで精査しながら、それを踏まえた上で、自園方式を推奨すると。例えば、地産地消率も高まるし、浜田市の考え方による食育を直接的に提供しやすいというメリットもある。そういうコストも踏まえた上で、委員会として提言できたらよいと思う。また、もう1つ、委員長が言われた2本の柱の前提として、公立幼稚園の必要性というのが前段にあって、公立幼稚園というものが浜田市ではこうだ。最低でも1園は確保していくんだということを前提に、だから新園を早く建設すべきだ。そして、そこに必要なサービスはこうだという流れをつくったほうが、今後の公立幼稚園のあり方にも考え方がまとまったイメージなのでよいのではないかと思う。それはこちらでまとめかけていることに係っていくことなので。

西村委員長

それはそうだ。他から運んでくるのと、自分のところでおいが伝わってくる環境とでは、幼稚園の先生も随分子どもに対しての教育に対する姿勢が違ってくると思う。それはあると思う。

三浦委員

実際に旭町の給食はおいしかった。

牛尾委員

やはり、お昼前になると香りがしてくるといのはよいことだ。

西田委員

結局、市の幼児教育に対する思いがあるか、ないかだけだ。予算はつけようと思えばつけられる。ふるさと寄附でも青少年健全育成でもあるのだから。自校方式も、給食センターができる前の段階では、三隅も全て那賀郡の自校方式でやっているのを全部廃止して、全部浜田の給食センターから配送するという方針を出していた。それを、今の議論で自校方式がどれだけよいかを訴えた結果、何とか給食室があるところは残しているが。当初は今の給食センターは5000食は一日でできるから、全部配送するということになっていた。

三浦委員

能力的にはあるのか。

西田委員

ある。

牛尾委員

そうになっていたが、藤沢市に視察に行ったあたりから、藤沢市が地産地消の観点から自校方式をしていて、私も考え方を改めて、そのかわり自給率を上げることという話をした。あのあたりからセンター方式を中途でとまっているというか。冬場に旭や弥栄に持っていくのは理論的には可能だが、実際は難しい。

西田委員

随分議論もした。本当によいのは自校方式で、地元の食材を、できるだけ周辺の食材を使うのがよい。

牛尾委員

いつか恵庭市に学級ごとに御飯を炊くという話を聞いた。

西田委員

子どものためになることはたくさん考えられるが、保護者が一番子どもに対する思いが強く、我々委員会はその保護者の意見と、市の間に入っているもので、熱い思いが少しはわかっている。保護者の気持ちも。しかし教育委員会や市は、数字や計算だけされるのが中心になっていて、気持ちで行動しない。だからいろいろな要望をしても、要望とだけ受けとめられて終わってしまう。主には財政的なことが問題として。しかし、本当に子どものことを考えるなら、もっと子どもに対する予算をいろいろ

西村委員長

ろな形でつけてよいと思う。ほかにできることはたくさんある。
ここで5分休憩とする。再開は14時30分を予定する。

[14時 25分 休憩]

[14時 35分 再開]

西村委員長

委員会を再開する。

では、統合幼稚園を先にまとめるということで、統合幼稚園について、
どういう提言にするかというところで、まず1点は新園について早急に建
設計画について明らかにするというのが1つの柱。その中で自園方式の給
食や木育推進などの意見も出たが、そういうことも入れていく。2点目が
それを前提として3つのサービスについて、統合前から現在の3園に導入
していくかということ積極的に探って実施に向けて行っていくという
大きな2つを柱とする提言をしたいと思う。その上で皆から意見を聞き、
肉づけをしていく。

下間書記

執行部の説明だと、3つのサービスのうちの1つは、通級指導教室だが、
それは除いて、通園とするのか。

西川委員

それも入れて4つにしよう。

牛尾委員

1園になったら送迎は難しいかもしれない。広範囲になったら。

西村委員長

そう、それは難しいかもしれない。

芦谷副委員長

ほぼ出尽くしたので、一応、素案をまとめて具体的に目に見える形で作
業をやっていければよいと思うが。

西村委員

それで、時期的にどうするか。スケジュール的に。

牛尾委員

それは、年度内に。

三浦委員

しかし、試算しないとできないのではないか。そこは試算した上で盛り
込めるのであればできるだけ早くすればよいが、給食サービスをするに
当たってのコスト計算をしないままに、要望があるので、それをそのま
まというのは、少しよくない。だから、要望を受けた。それを多角的に
見た結果、委員会としてやるべきだという提言にしないと。給食をセン
ター方式で3園に配送するときどのくらいの予算がかかるのかとか、そ
れを月にどのくらいまでだったらこれくらいのコストでできるとか。自
園方式にしたときに実際に給食室の運営とセンターから配送したときに
どうなのかとか、あと、預かりをしたときにメリット、デメリット。送
迎にしてもそれは難しいのでは、とか現状がわからない。

牛尾委員

給食は聞けばわかる。

永見委員

センター方式は今、1回か2回はやっているわけだから、それを何回か
ということ出せばよいのだから試算できるのではないか。自園方式がで
きるかどうか。

牛尾委員

自園方式はどこかをモデルにして、おおよそということよいと思う。

三浦委員

そう。市内の保育園で給食をつくってどのくらいのコストがかかってい
るのかを1つの目安にすることでもよいと思う。

永見委員

それに園児数をかければよいか。

西村委員長

それは、学校とそう変わらないのではないか。

永見委員

量が違うくらいで、そう変わらないと思う。各学校で自校方式でやって

- 三浦委員 いるのを参考にしてもよいのではないかと。
執行部が渋る理由はコストだけなのだろうか。預かりをすることによって、よいことと、そうでないことが何かあるのだと思う。それを踏まえてからでないと、やみくもに全部やるべきというのも難しいと思う。
- 西村委員長 私も表面的というか、実際に聞こえてくる声はコストのことしかなかった。財源がないということ。
- 牛尾委員 保護者がもう1時間預かってもらえたら助かると言っていた。仕事の関係だと思うが。
- 西村委員長 これらは教育委員会か子育て支援課に聞くしかない。何時間を想定しているのか。
- 西川委員 民間の保育園はやっているから。
- 西村委員長 ただ、いずれにしても、誰か受け持ってもらわないと、私が全部はできない。
- 牛尾委員 割り振りをしてやろうか。
- 下間書記 それは自分たちおのおの調べるつもりか。現状を把握するということで、委員会を開いて、執行部から聞くということではできると思うが。
- 三浦委員 なぜ、できないのか理由を詳細に聞く。
- 西村委員長 そのほうが、そごがなく一番よい。そんなことをいきなり文書で提言されても、と言われかねないから。
- 西村委員長 では、委員会の日程調整をする。
ここで暫時休憩する。《委員間・執行部と日程調整》

[14時 58分 休憩]

[15時 10分 再開]

- 西村委員長 委員会を再開する。
執行部の説明を聞くということで主には3つのサービスについて、もし実施をすればという前提で、それぞれにかかる費用について、試算の状況を教えてもらうという中身。それを聞いた上でこちらの提言、政策の根拠づけにもしたい。
3月29日の10時から委員会を開催する。
3つのサービスというより、1つは給食を例えば、月に2回の現状だと聞いているが、これを追加する形で、こういう形で追加する場合はどうか。どういう見積もりをされているかわからないが。
- 牛尾委員 1回で幾らかかかっていて、現行ではどのくらいまで回数を増やせると想定しているのかということと。
- 西村委員長 預かり保育については、1時間なのか。現行で2時までのものを3時まで延長するのか、4時まで延長するのか。大体これについて、執行部はどの程度見積もっているのか。そして、以前だと送迎が3つ目のサービスと聞いていたのだが、そういう送迎をすれば、当然バスも要るし、運転手も必要になるが、その見積もり。通級教室は今回新たに出てきた中身のようだが、これも人件費がほとんどだろうと思うが、そのあたりについて。
- 牛尾委員 あと、自園方式にした場合、設備的におよそどのくらいかかるのかがも

しわかれば。

三浦委員 執行部が思うそれぞれのメリット、デメリットも聞きたい。
西村委員長 まあ、ソフト的なものもあるのかもしれないが。
三浦委員 これは子育て支援課が来られるのか。
下間書記 教育委員会の教育総務課にもお願いした。
三浦委員 給食センターも来られるか。
下間書記 給食センターは来られない。
三浦委員 でも、教育総務課がちゃんと把握されているか。
下間書記 ちゃんとと言われると、急な委員会なので。
芦谷副委員長 教育委員会が給食センターのセンター長だから。
永見委員 まあ、教育委員会が来られれば、給食センターのことはよいのでは。
牛尾委員 29日だと丸々1週間あるので、それなりの資料はつくっていただけるだろう。

西川委員 あと、少し離れるが、幼児教育センターが移管された後の現状で考えている方針や体制について伺いたい。業務内容とか体制など。
下間書記 資料については、できるだけ早目にとお願いはするが、当日の朝になるかもしれないので、ご承知おきいただきたい。

西村委員長 本当にセンターの設立は統合と同時に考えているのだろうか。この前聞いたが、いま一つ言い切ったように聞こえない。
三浦委員 本来は別の話だと思う。別の話だが、統合の際にという感じだ。
西村委員長 別の話だが、現実問題統合しないとそれに見合うスタッフがいないというのがあるという気がする。
牛尾委員 職員の処遇がメインで中身がメインになってないのではないかと思う。
西村委員長 ほかにあるか。

（ 「なし」という声あり ）

次回の委員会は 3月29日（月）午前10時からとする。
以上で総務文教委員会を終了する。

[15 時 20分 閉議]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

総務文教委員長 西村 健 印